＜文化財の種類　無形民俗文化財　記録選択＞

名　称	交野節（かたのぶし）
所在地	枚方市宗谷 枚方市田宮本町 交野市私市
保護団体	美谷川会 交野ヶ原交野節・おどり保存会 私市・音頭保存会

説　明

交野節は、河内国交野郡で発生して江戸時代中期から後期に移る頃に成立したとされる（註1）。その後幕末から明治期に、主に北河内地域の盆踊りで流行し広まった盆踊り歌（註2）と言われる。交野節の主要な特徴のひとつは、七七七五七五の定型詩を繰り返して唄い、決まった区切りで「ヨホホイホイ」と掛け声が入ることである。大阪府下に残る数少ない伝承音頭（註3）のひとつであり、現在も地域の各保護団体において交野節の唄および踊りが継承されている。

○由来及び沿革

交野節の起源について明確な記録は確認されていない。地元の言い伝えとして、正平３年（1348）の正月、楠木正行（くすのきまさつら）の軍勢が四條畷の戦いで討ち死にした際、生き残った正行軍の家臣である和田賢秀（わだけんしゅう）が交野村（現在の私部（きさべ）・倉治（くらじ）・郡津（こうづ）のこと）に落ち延び、戦死した兵士を弔って念仏踊りをしたことにはじまり、村人によって踊り継がれて盆踊りとなったという伝説が残っている（註4）。

交野節の成立について、一説によると河内国交野郡（現在の交野市全域、枚方市の大部分、寝屋川市の一部）で発生して江戸時代中期から後期に移る頃に成立し、盆踊りで唄われたものとされる。その後北河内地域の盆踊りで流行し広まったが、幕末期には農閑期などに大きな農家の座敷などで人を集めて聞かせる「座敷音頭」としても唄われるようになったとされている（註5）。

このほか、枚方は幕末から明治の中頃まで交野節の本場であったという記録があり（註6）、交野市星田の住民からは昭和 15 年（1940）ころまでは交野節を唄っていたとの話の記録がある（註7）。また、昭和 62 年（1987）および昭和 63 年（1988）に実施した大阪府下の民謡調査（註8）において報告された全約 1800 件の民謡のうち、３件の交野節の音源が収録されている。さらに、平成 16 年（2004）度に実施した大阪府下の盆踊りに関する調査（註9）では、平成 16 年の１ヶ年において大阪府下で 990 箇所の盆踊りおよび盆の期間以外にイベントとして実施される盆踊りの催しの開催地を確認し、そのうち交野節は枚方市内４箇所および大阪市内２箇所の計６箇所で唄われたことが確認されている。現在は、北河内地域に拠点を置く３つの団体において、交野節の唄および踊りの継承、継続的な公開活動がされている。

○芸態

主に８月の盆の時期に、会場となる境内や広場等に櫓もしくはステージ等を組み、音頭取り、楽器奏者、囃し手が登壇する。踊り手は櫓もしくはステージ前を中心に反時計回りに輪踊りをする。独唱者（音頭取り）が歌の主要部を独唱し、続いてその他大勢が囃しことばを唱和する「音頭一同形式」で行われる。

交野節の唄の構成は、「七七・七五七五」という字数の定型を一節とし、一節の旋律を繰り返して唄うことを原則とする（漢数字は詩の字数を表す）。「七七」を上の句、「七五七五」が下の句の二つに分かれ、音頭取りが上の句を唄い終えると踊り手に向かって「ヨホホイホイ」と掛け声をし、踊り手はすぐに「アーヤレコラセドッコイセ」等の囃しを掛ける。次に、音頭取りによる下の句が始まり、七五と七五の間に踊り手が「サ」または「コラ」等の短い掛け声を入れる。下の句を唄い終われば踊り手が「ソリャ　ヤットコサーノサーノサーノヤットコドッコイセ」等の囃しを掛ける。

また、交野節が流行し広まるとともに、一節の旋律や囃し、太鼓の打ち方、踊りの振りは地域ごとに少しずつ変化したが、七七七五七五の定型であること、上の句を唄い終えたあとに「ヨホホイホイ」の掛け声をいれる点が共通している。

歌詞は、叙事的な長編の歌の口説形式[註10]であり、「石川五右衛門一代記」や「坊主落とし」等の演目（「外題」という）が継承されている。また、現在は各保護団体において新しい歌詞を創作する活動がみられる。

踊りは、各保護団体において交野節を唄う際に踊られる踊りの振りが継承されている。交野市星田地域、交野市私市地域等の踊りの振りの継承がみられるほか、平成 14 年（2002）に美谷川会の重村佳信（芸名：美谷川菊若）が、自身の幼少期に見た記憶と地域住民への聞き取り等を元に以前の枚方市尊延寺地域の踊りを復元している[註11]。

楽器は、太鼓を使用して囃し部分で演奏していたことが記録されているが[註12]、現在は全編において太鼓を演奏している。また、太鼓に加えて鉦を導入している保護団体もある。

衣装は、各保護団体において揃いの法被や浴衣を準備し、着用している。

○保護団体

・美谷川会（所在地：枚方市宗谷）

昭和 41 年（1966）に、山下元一（芸名：美谷川菊月）が「美谷川会」を発足する。山下氏は師匠より継承した交野節の唄で昭和 16 年（1941）頃から活動していた。平成 8 年（1996）に山下氏が逝去し、弟子の重村佳信（芸名：美谷川菊若）が会主を引き継ぐ。平成 14 年（2002）に重村氏が尊延寺地域の踊りを復元し、交野節の唄と踊りをあわせて継承するようにした。平成 29 年（2017）に重村氏が逝去し、竹市修（芸名：美谷川竹丸）が会主となり、現在の会員が交野節を継承している。

・交野ヶ原交野節・おどり保存会（所在地：枚方市田宮本町）

平成 14 年（2002）に盆踊りチーム「スターダスト河内」を発足。美谷川会の重村氏より交野

節の踊りの指導を得ながら美谷川会の活動時の踊り手として連携するなどしていた。平成 29 年（2017）に重村氏が逝去したことをきっかけに、交野節の保存と継承を目的として「交野ヶ原交野節・おどり保存会」をスターダスト河内の会員有志で構成して発足する。なお、交野節の唄の指導は、会川藤助および山下元一の指導を受けた吉田昌信（同会顧問）によるものである。

・私市・音頭保存会（所在地：交野市私市）

私市地区の盆踊りが中止となった平成 26 年（2014）に、地元有志により盆踊りを開催したことをきっかけに活動をはじめる。その後、平成 27 年（2015）に地域に伝わる盆踊りについて、私市地区で青年時代を過ごした方へ指導を求めた。その際、録音されたカセットテープ等の交野節関係資料を受け継ぎ、資料を手本として交野節を習得した。そして平成 28 年（2016）に「私市・音頭保存会」を発足し、地域に伝わる盆踊りを継承することを目的として活動している。

○評価

交野節は、江州音頭やほかの音頭が大阪府内で普及する以前の音頭の様式を今に伝える大阪府下に残る数少ない伝承音頭であり、伝承者の高齢化等により継承が危ぶまれている中で地域において大切に唄い踊り継がれていることは重要である。

大阪府下に伝承される盆踊り歌の変遷や特徴を理解する上で貴重であるため、記録作成の措置を講ずるものである。

［註］

（註１）村井市郎『河内の音頭いまむかし』八尾市役所市長公室広報課　1994

（註２）平成元年（1989）刊行の『大阪府の民謡－民謡緊急調査報告書－』において、交野節は「踊り歌（踊り歌・盆踊り歌）」に分類されている。

（註３）平成 16 年（2004）度「ふるさと文化再興事業」大阪府伝統文化総合支援研究事業実施報告書『大阪府の盆踊り』において、交野節は河内地域における「旧村などの集落単位や町内会単位など地域が限定され（一部は広域に行われているものもある）、地域住民により伝統的に続けられてきた、江戸時代以来の盆踊り（伝承音頭）」に位置づけられている。

（註４）右田伊佐雄『大阪の民謡』柳原書店　1978

（註５）村井市郎『河内の音頭いまむかし』八尾市役所市長公室広報課　1994

（註６）『枚方市史』枚方市役所　1951　該当部分は、昭和 16 年（1941）筆録。

（註７）『交野市史　民俗編』交野市　1981

（註８）平成元年（1989）刊行の『大阪府の民謡－民謡緊急調査報告書－』では、昭和 62 年（1987）および昭和 63 年（1988）に大阪府下全域において地元で古くから歌い継がれてきた民謡を対象として調査を実施し、約 1800 件が報告されている。そのうち収録された交野節の音源は、No. 596 山下作一（枚方市尊延寺）、No. 597 詳細不明（交野市）、No. 598 会川藤助（交野市星田）の３件である。このうち No. 596 は、美谷川会の美谷川菊月（芸名）と思われる。

（註９）平成 16 年（2004）度「ふるさと文化再興事業」大阪府伝統文化総合支援研究事業実施報告書『大阪府の盆踊り』において、記録のあった枚方市内の４箇所は「美谷川会」による活動であることを確認し

た。また、大阪市内の２箇所について、１箇所は「第８回なにわ伝統芸能功労知事表彰」のイベントで、美谷川会の重村佳信（芸名：美谷川菊若）が交野節の保存継承活動で表彰を受け、交野節を披露したものである。もう１箇所は「上方芸能まつり in ミナミ 2004」に同じく重村佳信が出演し、交野節を披露している。

（註 10）「口説」は、物語りや出来事を原則として七七調や七五調連続の長編の叙事詩を歌う形式を指す。交野節は、近世において抒情詩的な「小歌形式」が多く、近代に入ってからは「口説形式」が次第に多く唄われるようになったと考えられている。（村井市郎『河内の音頭いまむかし』八尾市役所市長公室広報課 1994）

（註 11）産経新聞　大阪朝刊　平成 16 年（2004）４月６日付

（註 12）右田伊佐雄『大阪の民謡』柳原書店　1978

［参考文献］

右田伊佐雄『大阪の民謡』柳原書店　1978

村井市郎『河内の音頭いまむかし』八尾市役所市長公室広報課　1994

村井市郎「席の芸と櫓の芸－江州・河内オンドロジー－（『ミュージック・マガジン』一九八五年三月号～十一月号より転載）」『秋篠文化　第七号』NPO 法人奈良芸術文化協会　秋篠音楽堂運営協議会　2009

大阪府教育委員会事務局文化財保護課『大阪府の民謡―民謡緊急調査報告書―』大阪府教育委員会 1989

大阪府伝統文化総合支援研究委員会・HB ネットワーキング『大阪府の盆踊り』大阪府教育委員会文化財保護課　2005

『交野市史　民俗編』交野市　1981

『枚方市史』枚方市役所　1951

写真１　美谷川会（練習会のようす・令和４年５月 15 日撮影）

写真２　交野ヶ原交野節・おどり保存会（枚方宿ジャズストリート・令和４年 11 月 13 日撮影）

写真３　私市・音頭保存会（私市地区夏祭り・令和４年８月 13 日撮影）